

「発表ありがとうございました。〇〇大学の××です」

←きらいすぎ

1.

2024年6月22日(土)、哲学研究者の悪友に誘ってもらったので、数年ぶりに大学の研究フォーラムなるものに参加してきた。そして、参加してるうちに、体力がなくなったのと、なんとなく「すわりの悪さ」を感じたのとで途中退出してきた。この「すわりの悪さ」について、少しだけ書き残しておこうと思う。先に言っておくと、この散文のタイトルが「すわりの悪さ」の一部を担っている。

2.

参加してきたのはこんな感じのフォーラム<sup>1</sup>。

**第13回臨床哲学フォーラム**  
(規範の外の生と知恵)

**パチンコ・パチプロの哲学**

主催：大阪大学倫理学・臨床哲学研究室  
共催：科学研究費JP23K00009  
日時：2024年6月22日(土) 14:00-17:30  
場所：大阪大学豊中キャンパス

パチンコで生計を立てるパチプロたち。  
パチプロという生き方をめぐる知恵と多様性。  
パチンコに勝つためのさまざまな技術と戦略。  
その極みには何が見えるのか。

本フォーラムではパチプロの方々や研究者をお招きして  
パチンコ・パチプロの哲学について議論を交わします。

【パートI：研究編】  
趣旨説明・登壇者紹介：小西真理子  
発表1「パチプロの倫理」小西真理子（大阪大学）  
発表2「基礎的なものと影：パチプロ職いなパチプロの事例から」  
松崎かさね（福井県立大学）  
発表3「人は何故オカルト打法に走るのか：  
ヒュームとワイトマンシュタインを手がかりに」  
清越大森（大阪大学）

質疑応答

【パートII：パチプロ編】パチプロ対談  
登壇者：丈丸、マコト、ガリバー、大川冬馬（司会：小西）  
質疑応答

・参加希望者は、Googleフォームからご登録ください。  
・Googleフォームは以下のアドレスないし右のQRコードからアクセスしてください。  
<https://forms.gle/VtWo8xVqmSx1bMK8>  
・本フォーラムのオンライン配信はございません。開催場所の詳細（教室）は、事前参加登録いただいた方に、受付締切後にお送りいたします。参加登録いただいた方には少し  
ばらくお待ちいただきますようお願いいたします。  
(受付開始：2024年6月16日(日))

お問い合わせ先:mariko.konishi@let.osaka-u.ac.jp

<sup>1</sup> ポスターの出典は以下(2024年6月24日最終アクセス)

<https://x.com/oOomarikooOo/status/1791646723951182080>

めっちゃおもしろそう。

「パチンコ・パチプロの哲学」で。そんなん聞いたことないぞ。もうポスターがおもしろい。パチンコ店の広告みたいな配色のポスター。発表者の名前をざっと眺めると小西さんの名前があった。小西さんは以下のようなことを考えている方らしいです(伝聞)<sup>2</sup>。

2023年 7月更新

## 准教授 小西真理子

こにしまりこ

臨床哲学／倫理学

依存と嗜癪をめぐる現代の諸問題／ケアの倫理



### メッセージ

日常を過ごすなかで、(他者や自己の)言葉にならない「苦しみ」や「想い」に出会うことがあると思います。倫理学・臨床哲学の営みは、それに一定の言葉を与え、「この苦しみ／想いは一体何なのか」「それはどのようなことを訴えているのか」「何が必要とされているのか」などに対する答えの一つを、これまでとは別の仕方でも導く手助けをしてくれます。「言葉なき声」に耳を傾け、それをあえて学術的に言語化することでこそ見えてくるものについて考えていきたいです。

### 【写真に書いてある「メッセージ」全文】

日常を過ごす中で、(他者や自己の)言葉にならない「苦しみ」や「想い」に出会うことがあると思います。倫理学・臨床哲学の営みは、それに一定の言葉を与え、「この苦しみ／想いは一体何なのか」「それはどのようなことを訴えているのか」「何が必要とされているのか」などに対する答えの一つを、これまでとは別の仕方でも導く手助けをしてくれます。「言葉なき声」に耳を傾け、それをあえて学術的に言語化することでこそ見えてくるものについて考えていきたいです。

2023年に出版された『歪な愛の倫理 ―〈第三者〉は暴力関係にどう応じるべきか』が俺的にとても良かったので、その小西さんが「パチンコ・パチプロの哲学」と題したフォーラムで発表するとあっては、がぜん楽しみ。わくわく。

<sup>2</sup> 大阪大学の学部専修紹介の教員紹介より(2024年6月23日最終アクセス)

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/academics/undergraduate-course/f-rinri>

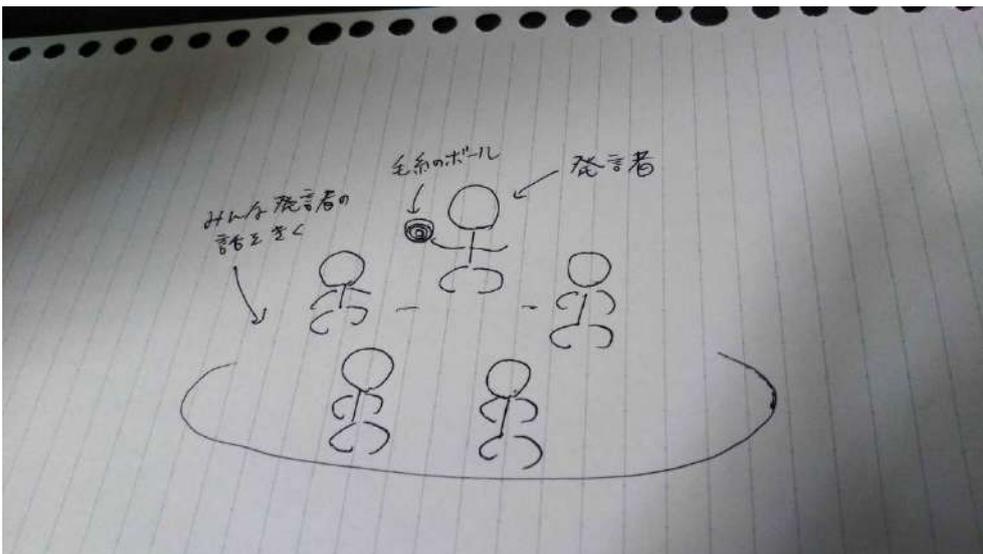
(補遺)

実は以前、悪友が酒の席で「西洋哲学はパチンコで説明できる！ガハハ！（大意）」と言って、俺は雑談程度に思っていたのだが、なんとその話が今回倫理学・臨床哲学研究室のフォーラムに結実していて、びっくりした。ガチだったんだ……。

3.

小西さんが所属している某阪大学の倫理学・臨床哲学研究室は、俺も何度か授業に参加したことがあるのだけど、結構おもしろいところだった。授業内容の一つを紹介すると、なんか参加者が輪になって座って、テーマに沿って各々がひとりずつ自分の経験を話すみたいなのをやっていた。発言者には虹色の毛糸玉(ぼんかんサイズ)が手渡されて、発言者が移るとその毛糸玉も一緒に移動する、という感じだった。今思うと、あれって「サークル」っていう教育手法だったのかな？ ようわからん。

【イメージ図】



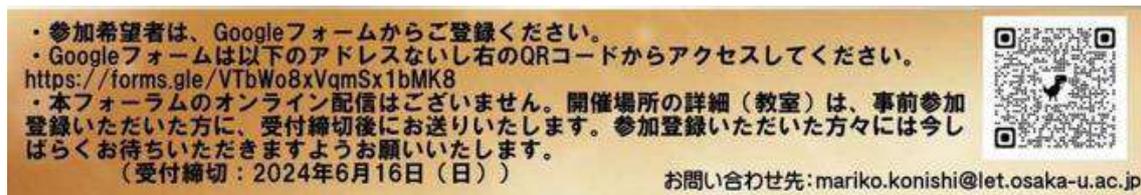
【写真説明】

ルーズリーフに5にんの棒人間が円を描くように座っている様子が書かれている。「発言者」の手には「毛糸のボール」が描かれている。みんな発言者の話をきく

なんというか、「サークル」みたいな授業スタイルからしてもそうなのだが、倫理学・臨床哲学研究室は、何かが「中心」になろうとする動きを非常に警戒しているところがある。俺にとって、その警戒からくる雰囲気は心地いいものだったし、大事なことだったんだなと今も思う。ポスターには「規範の外と生の知恵」とある。「らしさ」が出ている。研究室のカラー的な。期待が高まってきた～！

4.

ところで、ポスターによれば、参加者は Google フォームから事前に登録が必要とのことだったのだが、俺は事前登録の存在を開催前日になるまで知らなかった。パチンコカラーに気を取られてポスターをちゃんと読んでいなかったのだ。



【写真に書いてある内容抜粋】

・参加希望者は、Google フォームからご登録ください。

[中略]

・本フォーラムのオンライン配信はございません。開催場所の詳細(教室)は、事前参加登録いただいた方に、受付締切後にお送りいたします。[中略](受付締切:2024年6月16日(日))

気付いたら受付締め切りをとうに過ぎてしまっていた。開催場所の教室は事前登録者に送付されるらしい。俺は事前登録をしていなかった。場所がわからない。

しかしながら、俺には悪友というコネがある。悪友に聞いて開催場所を聞き出した。どうやら開催場所は「全学共通講義棟 I」の 3 階にある「CO デザインスタジオ」だそうだ。あそこか。何回か行ったことがある。

経路のイメージができた俺は、2024 年 6 月 22 日(土)当日、HPV ワクチン<sup>3</sup>を打ってから某阪大学の CO デザインスタジオに向かった。着いた。閉まっていた。なんでだ。廊下も電気がついてなくて暗い。ちょっと怖い。ここ、明らかに開催場所じゃない気がする……。と思っていたら、暗い廊下からレジユメを抱えた悪友がひょっこり現れた。久しぶりー。鍵のかかった扉を見て、悪友も「明らかにここじゃねえな」感を悟る。

悪友がスマホを取り出して誰かに確認を取った。開催場所が B218 講義室に変更になったとのこと。連絡回ってなくて笑う。悪友とふたりして B218 講義室に向かう。着いた。入る。あ、小西さんだ、こんにちは(心の声)。講義室内には参加者が数十人ほどいた。俺は前から二列目の席に座った。あ、前列に置いてあるレジユメを取り忘れていた。ささっと取って席に戻る。

---

<sup>3</sup> シスヘテ男性が HPV ワクチンを打とうとするとめちゃくちゃ高い。ゆるすまじ。クソだなと思ったので、動画にしてみた

<https://www.youtube.com/watch?v=KMCAEsXeUew>

5.

真の開催場所が判明したところで、某阪大学名物の「阪大坂<sup>4</sup>」から発表会場のB218 講義室までをダイジェストでお届け(撮影したのは6月23日)。

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真1:「大阪大学」が刻まれた石碑

写真2:阪大坂を上っているとあらわれる一部がえぐれた石の地面

写真3:阪大坂を登りきったところにある自転車止めの丸石が置いてある境界

写真4:「少年よ大志を抱け！」的な気取ったポーズを取っている石像

写真5:ゴミ箱からあふれ出るゴミ

写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



<sup>4</sup> 「阪大坂」とは、「大阪府池田市の阪急電鉄宝塚本線・箕面線 石橋阪大前駅から石橋の街中を通り、待兼山西麓を登って大阪大学豊中キャンパスへ向かうルートの後半にある坂」(6月23日最終アクセス)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%AA%E5%A4%A7%E5%9D%82>

写真 6: 地面が灰色の石から赤土色のレンガに変わる部分

写真 7: 「全学共通講義棟<sup>5</sup>」に続く道

写真 8: 全学共通講義棟への階段

写真 9: 全学共通講義棟の B 棟正面

写真 10: 階段を上り切った直後の B 棟二階

写真 11

写真 12

写真 13



写真 14



写真 11: B218 講義室の扉

写真 12: B218 講義室の中。4 人座れるテーブルが並んでいる

写真 13: B218 講義室の後ろからテーブル・教壇・黒板を写している

写真 14: 前列の席から部屋の一角に設けられた教壇と部屋の隅を写している

---

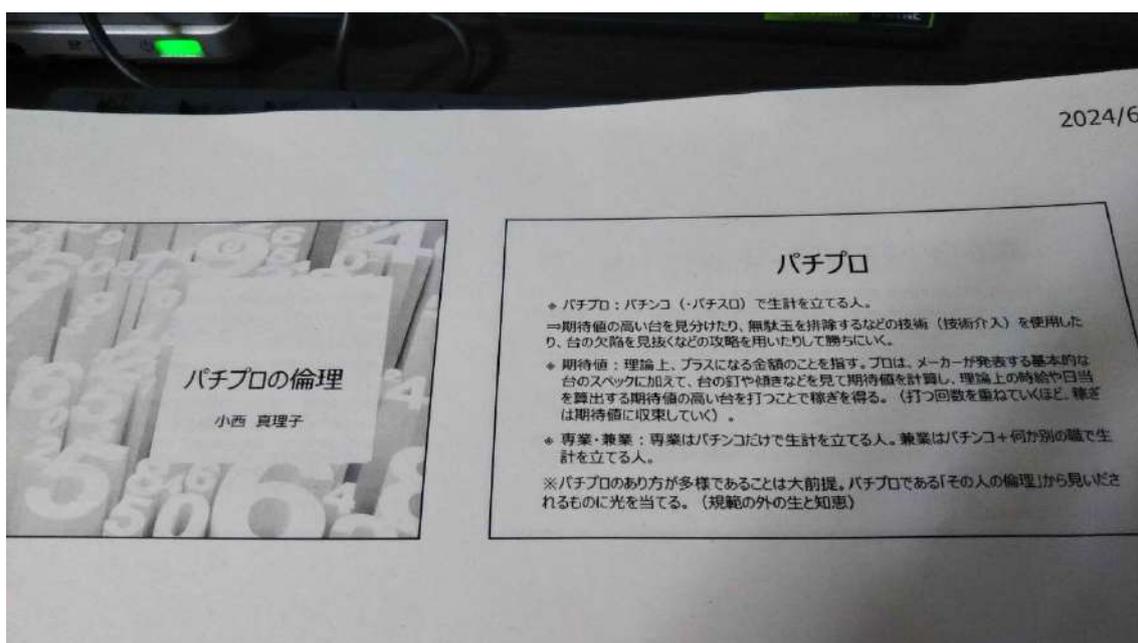
<sup>5</sup> こんな見取り図らしい(2024 年 6 月 23 日最終アクセス)

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/floormap/lect/>

6.

写真 14 の教壇に立った小西さんが発表を始めた。俺は写真 14 の小西さんから見て左斜め下くらいの位置に座って話を聞いていた。俺の左隣に黒いドレスに身を包んだ STAFF さんがいる。STAFF さんの黒いバッグには白い文字で大きく「MY ENERGEY COMES FROM FREEDOM」と書かれていた。かけえ。小西さんのレジュメを読む。

【小西さんのレジュメ抜粋】



【2枚目のスライド全文】

・パチプロ：パチンコ（・パチスロ）で生計を立てる人。

⇒期待値の高い台を見分けたり、無駄球を排除するなどの技術（技術介入）を使用したり、台の欠陥を見抜くなどの攻略を用いたりして勝ちに行く。

・期待値：理論上、プラスになる金額のことを指す。プロは、メーカーが発表する基本的な台のスペックに加えて、台の釘や傾きなどを見て期待値を計算し、理論上の時給や日当を算出する期待値の高い台を打つことで稼ぎを得る。（打つ回数を重ねていくほど、稼ぎは期待値に収束していく）。

・専業・兼業：専業はパチンコだけで生計を立てる人。兼業はパチンコ+何か別の職で生計を立てる人。

※パチプロの在り方が多様であることは大前提。パチプロである「その人の倫理」から見られるものに光を当てる。（規範の外と生の知恵）

パチプロの定義の話からはじまり、「日本におけるパチンコの歴史」「違法ギャンブルとパチンコ」「ギャンブル依存症とパチンコ」「社会悪とされるパチンコ」などスライドは進んでいく。各種

スライドが黒基調に赤文字などを使用していて、これもパチンコを意識した配色なのかなと思った。粗品(お笑い芸人)のユーチューブ動画の字幕みたいな感じ<sup>6</sup>。

7.

発表が進み、「倫理とは『生き様』である」と書かれたスライドが写された。小西さんが倫理についてコンパクトに話している。スライドの最後には次のように書かれていた。

・ある人の「生き様」。それは必ずしも一貫性があるように見えるものではないかもしれない。紆余曲折に満ちあふれたものであったり、不可解さや矛盾、ときに負の感情をはらんだものであったりするかもしれない。しかし、(その強弱に関係なく)社会規範に抗する抵抗を示す生のなかに、その人が決して手放さずに貫こうとするような、その人の生き様、そして、生きる知恵が存在するのではないか。

⇒規範の外の生と知恵

正直、結構すきな感じの文体である。そして、ポスターに書いてあった「規範の外の生と知恵」という文言が登場した。「らしさ」が出ている。研究室のカラー的な。数年前に受けていた授業の雰囲気思い出した。大事な時間だったと今でも思う。

「不可解」という言葉を見て、2022年に出版された『狂気な倫理 「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』(【編著者】小西真理子・河原梓水)も思い出した。刺激的な論考が多いので、『歪な愛の倫理』と一緒に読もう！(ステマ)。

8.

発表は(現役・元)パチプロへのインタビューのくだりに入っている。パチプロをひとりだけ取り上げるとその方が「代表者」に見えてしまう懸念があるので、複数の方のインタビューを紹介するということだった。「らしさ」が出て以下略。インタビュー詳細は論文化されていない内容が含まれるため、レジュメには未掲載だ。スライドにだけインタビュー内容が映し出される。小西さんが読み上げる。突然、「チーン！」と俺の左から卓上ベルを叩く音が聞こえた。びっくりした。STAFFさん(黒ドレスさんともうひとりいるっぽい)が卓上ベルを鳴らしたのだ。



【写真説明】卓上ベル

<sup>6</sup> 粗品の動画の字幕はこんな感じ。「超パチンコ依存症チェック」??  
<https://www.youtube.com/watch?v=UEIEMSsooxpE>

発表時間がおしているらしい。卓上ベルで知らせるのね、おもしろ。インタビュー内容で印象的な箇所がいくつかあったけれど、言及するのは小西さんの論文が出てからにしようと思います。

9.

小西さんの発表が終わった。知らないことが盛りだくさんだった。そもそも、俺はパチンコをやったことがない。悪友が「北斗の拳」の下からせり上がるカメラアングルについて力説するのをきいた程度の知識しかない。パチンコ素人の身からすると、三点方式<sup>7</sup>の解説すら新鮮なのだ。全然知らないトピックの話をもっと聞いたときの「自分の知らないことがたくさんあるなあ」という素朴な感想が湧いてきた。

……ていうか、なんかこの講義形式とかいうやつ、俺苦手だな?? なんだろう、この、話し手と聞き手の役割が明確に区分されて、教える側／学ぶ側の関係性が規定されている感じ。みんなあんまり身動きとらないな。みんながそんな感じだと逆にムズムズするな。意識的に身体をゆすったりメモを取るためにスマホをさわったりしてみる。うーん、落ち着かない。この落ち着かなさは大学にいたときからあったけど、そのときは落ち着かないことについて特に気にしていなかった。そういうもんかなーと思ってた。でも、ひさしぶりに大学のフォーラムに出てみると、当時のそわそわした感覚が戻ってきて、しかもそれがなんか「嫌だ」ということがよりはっきりと感じられた。発表内容どうこうというより、この「講義」形式とそこに付随する透明で粘着質な力関係が、なんか嫌だ。「規範の外」のことを共有する場の「規範」。とっさにそこまでの言葉にはならなかったけれど、「苦手だな??」くらいはふわっと思った。批判的なあれやこれやはそういう感じで出てくるときがある。すぐに忘れてしまうこともあるし、あとから言葉になることも、ある。

10.

さて、俺が落ち着かなさにもぞもぞしているうちに、松崎かさねさんの発表になった。時間が大分おしている。19分遅れていた。教壇に立った松崎さんが「発表時間が1分しかない」と笑っている。俺もつられて笑った。

松崎さんの発表はすべてスライドで行われたので、紙媒体のレジュメはない。発表内容は、パチンコライターのパイク修次郎さんをメインで取り上げたものだった。パイク修次郎さんや別のパチプロの方が、「パチプロ」という存在をどう捉えているか、的なことを紹介していた(と俺は記憶している)。発表中には、パイク修次郎さんが登場している YouTube 動画が紹介さ

---

<sup>7</sup> 以下、小西さんのレジュメより抜粋

・三点方式:①パチンコ店は一般景品や特殊景品などの商品を提供。客はパチンコ屋の近くにある景品交換所(パチンコ店からは独立した店舗)で特殊景品をお金で買い取ってもらう。②景品問屋が景品交換所から特殊景品を買い取り、パチンコ店に納品する。  
⇒パチンコ店と景品交換所は別の店であるため、パチンコ店は「換金」する場所ではないため、パチンコは賭博ではない。

れたのだが、音声トラブルのため、無音動画をスクリーンに投影しつつスマホで動画音声を流す、というなかなかアクロバティックな上映方法になっていた。普通に見れた。でも、スピーカーとかあったらよかったなあと思う。

てか、バイク修次郎さん、発表会に参加してた。その場で松崎さんの発表内容に捕捉情報を入れてくれる。バイク修次郎さんは自分のことを「パチプロ」とは思っていないらしい。「パチンコアドバイザー」的な単語で自分を表現していた。おもしろい。バイク修次郎さんの他にも動画で紹介されているパチプロの方が参加されていて、松崎さんは参加者の方と掛け合いをしながら発表を進めた。「チーン！」とまた卓上ベルが鳴らされる。この研究フォーラム、つねに遅延している。いいと思う。松崎さんの発表が終わった。……なんか、ちょっとだけ感想が出てきたかもしれない。

11.

「松崎さんの話は？」。発表が終わってすぐにそう思った。バイク修次郎さんをはじめ、パチンコに精通している方の話はたくさん出てきたのだけれど、「松崎さん自身」の話は出てこなかった。なんちゅーか、それが引っかかったのだ。「そもそも何で松崎さんはパチプロの研究をしているんだろう？」「パチプロの話をしませよー」とポスターで告知しているので、「発表者自身」の研究の動機・背景はひょっとしたらあまり触れられないのかもしれない。でも、俺はそれが気になった。というも、それってめちゃくちゃ重要なことなんじゃないかと俺は思っているからである。「松崎さんの話は？」という気持ちの背景にある自分の経験たちが「ぼんやり」リフレインする。あー、とっさに具体的な情景が浮かばない。でもリフレインしている。クソみたいな「規範」に文句をいいたくて、納得したくて、自分が少しだけ多くの言葉と考えを求めたこと。でも、そういう「言葉」は結局、俺にとって（最初から気付いてはいたのだが）決定的に重要なものではなかったこと。濾過され続ける記憶の中で飛び地みたいな経験の断片がどうしようもなくリフレインしていること。「言葉」を選ぶのであれば、俺はその経験のリアリティに向かって選びたいと思ったこと。でも選んだ言葉は選んだそばから「四方八方に逃走する<sup>8</sup>」こと。そして、その度に「自分の身が引き裂かれるような身震いに遭遇する<sup>9</sup>」こと……。そんなあれやこれやがリフレインしているから、俺は「松崎さん自身の話」がきいてみたかったのだと思う。発表者がパチプロでもそうでなくても、そこに関わるようになった経緯や経験に、俺は発表者にちょっとでもいいから触れてほしかったのである。

12.

批判的なあれやこれやがそういう感じで出てきたので、小西さんの発表も批判対象として遡及的に浮上してきた。「そういえば、小西さんもパチプロさんたちの話を紹介していたけど、小

---

<sup>8</sup> フェリックス・ガタリ、【訳】高岡幸一、『機械状無意識—スキゾ分析』、1990、法政大学出版局、p.8

<sup>9</sup> 俺、「過去について」、2024、<https://anarchistshimamura.com/page-49/>、p.2

西さん自身の話はしなかったな……。むむむ。そういう感じでいいのだろうか。小西さんは以前Twitterで「私には〈当人〉にばかり光を当てるところがある<sup>10</sup>」と自身の「視点」を批判的に振り返っていたが、その批判はひょっとすると今回の小西さんの発表に対しても当てはまるんじゃないかな……。ああ、そういえば、大学で倫理学・臨床哲学の催し物に参加したときもなんか似たようなことを感じたことがあるぞ。「当人」を呼んで話をきく系のやつで、呼ぶ方々が「なぜ『当人』呼ぶに至ったのか」、あるいは「なぜそこに興味・関心があるのか」という部分が、ふわっと通り過ぎられていたような記憶……。ひょっとしたらそんな記憶は「捏造」か？ 俺が批判するために都合のいいように記憶を解釈し直しているだけか？ わからない。けど、ほんとうにちょっとくらいは触れてほしかった気がする。「当人」が「語る」ことは大事なことだと思う一方で、(すごく意地悪な言い方になってしまうのだが)発表者が「当人」を「語る」ばかりになるなら、ちょっとどうなんだろうと思う。ほんとうにちょっとくらいは触れてほしかった気がする。伝聞が発表者のリアリティの発露を遅延させているような気がした。俺は発表者が自分のことを「語る」ところを見たかった。発表者とパチプロの方たちとの間の関係性を何も知らない俺は、僭越にもそんなことを思った。そのときは、とっさにそこまでの言葉にはならなかったのだけれど。

13.

悪友「僕の父親はパチンコめっちゃやってまして、家の中にパチンコ必勝本がずらっと並んでるような環境で育ったんですけれども……」。

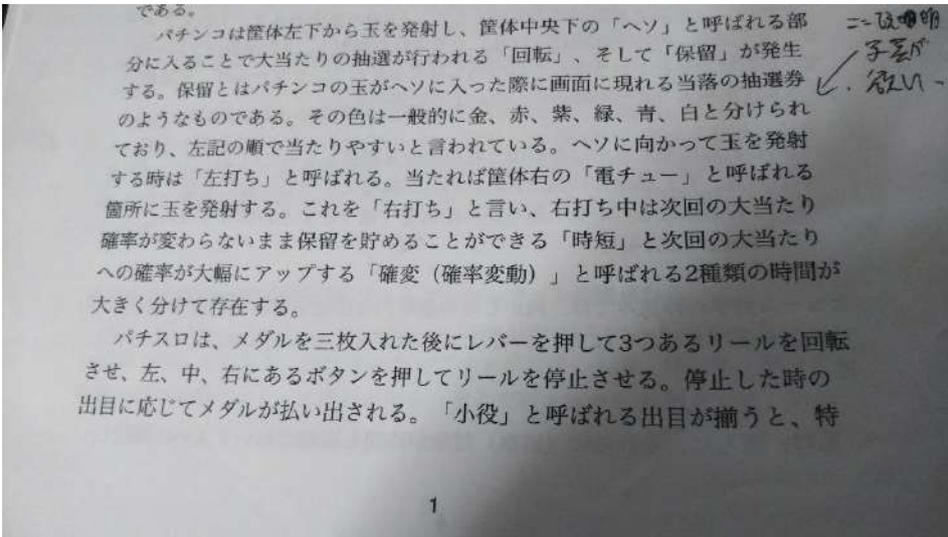
**いいぞ悪友~!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!(心の声)**

思わず心のエールが大きくなってしまいます。悪友は発表のしょっぱなから自分とパチンコとのかかわりについて話し始めた。「ものごころついたときからパチンコが身近にあったぜ！(大意)」というメッセージから始まった悪友の発表はレジメの「序」へと移った。その移行のプロセスが、俺にとってはとても心強かった。悪友が開口一番、小西さんと松崎さんが触れなかった部分についてダイレクトに言及したからである。なんかそのことに対する嬉しさが大きかったので、悪友が「序」の次にパチスコの概説を始めた下りは正直よくきいていなかった、ごめん。でも、概説読んでもなに書いているのかよくわかんないよ( )。

---

<sup>10</sup> <https://x.com/o0omarikoo0o/status/1722396872978141278>  
(2024年6月26日最終アクセス)

## 【悪友のレジュメ抜粋(「1 パチスロ概説」より)】



### 【抜粋全文】

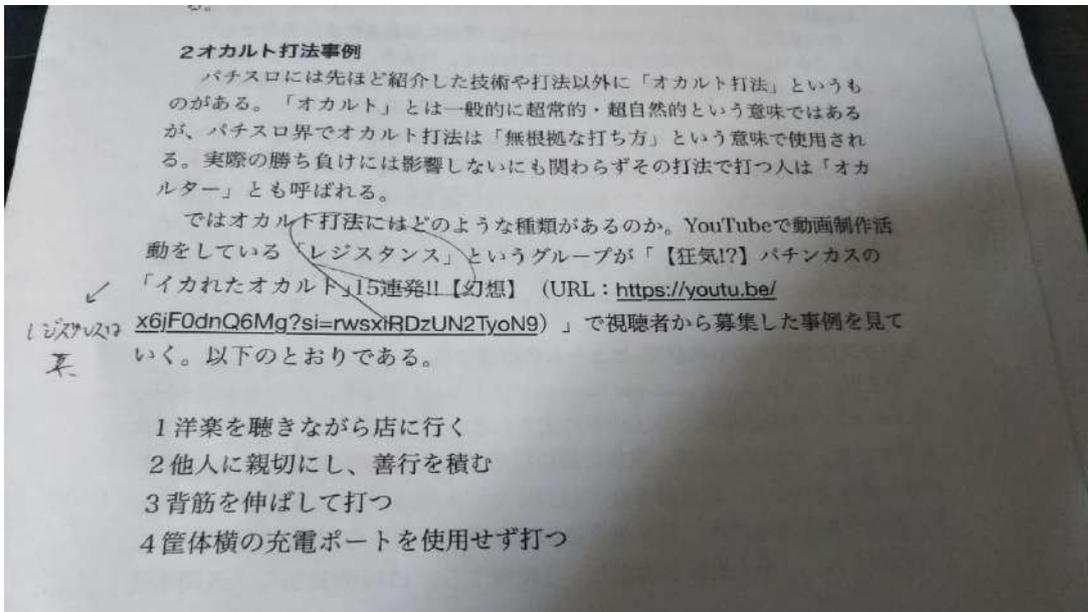
パチンコは筐体左下から玉を発射し、筐体中央下の「ヘソ」と呼ばれる部分に入ることで大当たりの抽選が行われる「回転」、そして「保留」が発生する。保留とはパチンコの玉がヘソに入った際に画面に現れる当落の抽選券のようなものである。その色は一般的に金、赤、紫、緑、青、白と分けられており左記の順で当たりやすいと言われている。ヘソに向かって玉を発射する時は「左打ち」と呼ばれる。当たれば筐体右の「電チュー」と呼ばれる筐体に玉を発射する。これを「右打ち」と言い、右打ち中は次回の大当たり確立が変わらないまま保留を貯めることができる「時短」と次回の大当たりのへの確立が大幅にアップする「確変(確率変動)」と呼ばれる2種類の時間が大きく分けて存在する。

パチスロは、メダルを三枚入れた後にレバーを押して3つあるリールを回転させ、左、中、右にあるボタンを押してリールを停止させる。停止した時の出目に応じてメダルが払い出される。「小役」と呼ばれる出目が揃うと、特

14.

悪友の発表タイトルは「人は何故オカルト打法に走るのかーヒュームとワイトゲンシュタインを手がかりに」というもので、オカルト打法に走る「パチスロ遊戯者の心的状況をヒューム、ワイトゲンシュタインの観点から分析する」(レジュメから抜粋)試みらしい。「オカルト打法」ってそーいや酒の席で悪友からきいたことがあったな、なんだっけ。と思っていたら悪友がオカルト打法の例で「レジスタンス」という YouTube グループの動画を紹介していて笑ってしまった。たまたま最近、俺はこのレジスタンスの YouTube のショート動画を見てげらげら笑っていたところだったのだ。なんかタイムリー。「俺は大学生なのでパチンコを打ちにいった」という意味の分からない順接から始まるショート動画のナレーションが頭の中で再生された。

## 【レジスタンスの動画を紹介しているくだり(「2 オカルト打法事例」より)】



### 【抜粋全文】

#### 2 オカルト打法事例

パチスロには先ほど紹介した技術や打法以外に「オカルト打法」というものがある。「オカルト」とは一般的に超常的・超自然的という意味ではあるが、パチスロ界でオカルト打法は「無根拠な打ち方」という意味で使用される。実際の勝ち負けには影響しないにも関わらずその打法で打つ人は「オカルター」とも呼ばれる。

ではオカルト打法にはどのような種類があるのか。YouTubeで動画制作活動をしている「レジスタンス」というグループが「【狂気!?!】パチンカスの「イカれたオカルト」15連発!!【幻想】(URL: <https://youtu.be/x6jF0dnQ6Mg?si=VW6aiE2zSWIW45iq>)」で視聴者から募集した事例を見ていく。以下のとおりである。

- 1 洋楽を聴きながら店に行く
- 2 他人に親切にし、善行を積む
- 3 背筋を伸ばして打つ
- 4 筐体横の充電ポートを使用せず打つ

オカルト打法の解説が終わると、パチスロ遊戯者の心的状態をヒュームの観点から説明するくだりに入った。デイヴィッド・ヒュームの基本情報がレジюмеに長々と書いてあったが、悪友はこれを一切読むことなく、「スコットランドの偉い哲学者」のひとことで済ませた。参加者からは笑いの声があがった。ちなみにヒュームの観点を利用した遊戯者の心的状態に関する説明については俺の理解が追いつかなかったので割愛。

ヒュームの話が終わると、パチスロ遊戯者の心的状態をウィトゲンシュタインの観点から説明するくだりに入った。ウィトゲンシュタインの基本情報がレジユメに長々と書いてあったが、悪友はこれを一切読むことなく、「オーストリアの偉い哲学者」のひとことで済ませた。参加者からは笑いの声があがった。ちなみにウィトゲンシュタインの観点を利用した遊戯者の心的状態に関する説明については俺の理解が追いつかなかったので割愛。

「チーン！チーン！」と卓上ベルが二回ならされる。めっちゃ遅れているらしい。悪友は発表のしめに入っている。なにやら「人間の合理性」について述べていた。よくわからなかったので割愛。

発表が終わった。なんかアレだな。悪友は以前、「西洋哲学はパチンコで説明できる！ガハハ！（大意）」と酒の席で話していたのだけれど、今回の発表は「西洋哲学をパチンコで説明する」のではなく、「パチンコ（遊戯者の心情）を西洋哲学で説明する」って感じだったな。関係性が入れ替わるとる。こころへんについては後で悪友にきいてみよっと。

15.

## 質疑応答

【質疑応答】の文字。ポスターより抜粋

3名の発表の後は質疑応答タイムに入る。写真13では黒板のそばにパイプ椅子が写っているけれど、当日はそのあたりに椅子が3つ並んでいて、発表者がそれぞれ腰かけて質問を受ける構図だった。挙手した方のところに黒ドレス STAFF さんがマイクを持って行って質問が始まる。

### 【質問者1】

質問というか、資料中のインタビュー日時の確認だった。小西さんが紹介したパチプロのインタビュー日時に不整合があったらしい。指摘の仕方が「パチプロが〇〇年当時に時給××円で満足していたとは考えにくい。2024年ならともかく」みたいな感じで、自給の相場感から不整合を割り出していた。すご。パチプロの方ですか？小西さんも「多分ミスですね」的な返答だった。

### 【質問者2】

「中国の〇〇大学の××です」と質問者は自己紹介した。中国からの留学生の方らしい。質問内容はよく覚えていないのだが、パチンコで生計を立てることに関連して、「ちゃんと働く」ことに価値があるとされていること自体がよくないのではないか、みたいな指摘だった。特定の発表者に対する指摘というよりは、それぞれの発表者に対する投げかけといった感じだった。ので、それぞれがそれぞれの回答をしていた。

16.

【質問者 3】

「某都大学の××です」と質問者は自己紹介した。ここでちょっと「うっ」となった。というのも、こういう研究フォーラムという場で質問者が大学名を名乗るという様式に対して、俺はかなり抵抗があるからだ。いる？その情報。なんだろう、大学名が質問者から明かされるたびに、この場には大学の研究者ばかりが参加していて、質問者はどこに所属しているかを名乗るのが「普通」であるという規範が強まっていくような気がする。こういうのはよくないと俺は思う。この場にいるのはパチプロの方も含め、大学関係者だけではもちろんない。オープンな場なのだから、いろいろな方がいるはずである。そうだというのに、「〇〇大学の～」を枕詞にする質問のスタイルは、そういう「いろいろ」を特定の規範的な「なにか」に経路づけ、狭めてしまう。そんな感じがしている。そのときは、とっさにそこまでの言葉にはならなかったのだけれど。

「某都大学の～」で若干気分が悪くなったのだけれど、質問内容としては「おお！」と思った。質問者 3 は松崎さんがパチプロを研究するようになったきっかけについて質問したのだ。

**それだよ！それ～～！！！！(心の声)**

質問に対して松崎さんは、支援職をしていたときにパチンコ関連のスゲー方に出会った的なことを回答していた(もう大分記憶があやふやなのでこら辺は自分が信用ならない)。なんか、そういう話を発表でききたかったなあ、とやっぱり思った。

あと、俺は前の席に座っていたので、後ろの席の質問者の発言中はできるだけその方を見るように身体をひねっていたのだが、質問者の声だけをきく前列の方も相当数いた。大人数が集まる場所では身体を大きく動かすことに抵抗が生じるのかもしれない。わかりみ。なんかあるよね、そういう動きを少なめにする空気感。ひとが集まったときに生じる規範的な「なにか」。「規範の外」のことを共有する場の「規範」。あんまり関係ないけど、中学校での「委員」決めのクラス会(学級委員、美化委員、保健委員などの各委員を決める)を思い出した。基本的になりたい委員についてみなが挙手をしていくのだが、不人気な委員ときは誰も手を上げずにクラス会が停滞する。動きがすくなくなる。みんなじっとして動かない。誰かが動くのを待っている。俺はそういうのが気持ち悪くて手を上げてしまうタイプだった。別に委員はやりたくないのだけれど、そういう動きの少ない「なにか」が苦手だったんだな、たぶん。しらんけど。

時間がおしているので、質問者は今手を上げている方までとのことだった。4 人が手を上げていた。

17.

【質問者 4】

「発表ありがとうございました。某阪大学 OB の××です」

やめてくれ~~~~~!!!!(心のシャウト)

「発表ありがとうございました。〇〇大学の××です」←きらいすぎ。

あ~~~~きらいだこの定型文~~~~~!! 流れできちゃったよ~!! 質問者が大学名  
言う流れできちゃったじゃん~~!! も~~~~研究フォーラムのこういうところだいらい  
~~~~~!! 「規範の外」のことを共有する場の「規範」~~!! うお~~~~!!!!

はあはあ。つい興奮してしまいます。ちょっとさあ、「倫理学・臨床哲学研究室」的にこれって  
どうなん?? こういうのを避けるためにいろいろ工夫してた気がするんだけどなあ……。う  
ーん。実は、この「質問者による大学名込みの自己紹介」に対する批判の観点は、倫理学・臨床  
哲学研究室の某教員の雑談からきている。なんの流れできいたことか完全に忘れたのだけれ  
ど、倫理学・臨床哲学研究室教員のHさんが、大学名を名乗ることについて「別に言わなくても  
いいのに、不思議ですよねえ」みたいなことを言っていた。俺はそのとき「確かにそうだな」と  
思って、今に至るまでそのことを反芻している。身体を捻って質問者の方を向いていると、後  
席に教員のHさん(今もまだ某阪大学にいるようだ)の姿が見えた。あ、Hさんだ、こんにちは  
(心の声)。今の質問者たちの「自己紹介」をきいて、Hさんはどう思っているのかな。

そして、質問者4さんもこんにちは、ご無沙汰してます。この質問者4のOBさんのことを俺  
は知っていた。何回か話したことがあるし、OBさんの部屋でお酒をふるまってもらったことも  
ある。すごく親切な方です。さて、OBさんは「いろいろなギャンブルがある中でわざわざパチ  
ンコにフォーカスする理由はなにか」というようなことを非常に明快に述べた。いや、言語化え  
ぐ。当日の雰囲気は文字だと全然伝わらないと思うんですけど、すげー流ちょうな喋りだった  
んですよマジで。まあ、言語化がえぐすぎるからこそ、さっきから形成されている「規範」が強  
まった気もしたんですけど。

18.

OBさんがあまりにも明快に質問したものだから、俺の中で何かスイッチが入ってしまってい  
た。「批判」的思考のスイッチ的なやつ。いや、違うな、「文句」だこれは。普段から何気なく「いや  
だな」と思っているけれど、特別に対象化してこなかったものごとたちが、具体的なできご  
とに引っ張られて、芋づる式にあわただしい言語化に見舞われる。大学のフォーラムでよくあ  
る「講義形式」とか、〈当人〉にスポットライトを当てつつも「自分」の話を注意深く暗幕の内側に  
隠したままにする語り口とか、誰かがうごくのを待っているフォーラムでの硬直した姿勢とか、  
「この場にはいろいろな方がいる」という前置きで始まった集まりで高偏差値の大学名付き  
「自己紹介」が繰り広げられる気持ち悪さとか、そういうやつ、そういうやつ、そういうやつ。高  
偏差値大学名+高水準の言語運用能力に基づく質疑応答で、もうその「水準」より下の質問を  
することは気が引けるぜ! 素人質問は及びでねえぜ!! ちゃんと論理だてて質問してね!  
もちろんそんなことは口には出されないよ! 発表者も質問者もそういうことは思ってもない

と思うよ！ でも誰も思っていなくてもそういう「経路付け」は毎回毎回きちんとなされるんだよ不思議だねえ！！

【質問者 5】

「発表ありがとうございました。某阪公立大学の××です」

【質問者 6】

「某都大学の××です」

【質問者 7】

「某阪大学の××です」

ああああああああクソがあああああ！！！！全員名乗ったじゃん！！流れでできてから全員名乗ったじゃん！！ 鉄鍋のジャン(全 27 巻好評発売中)！！！！

【『鉄鍋のジャン』！①抜粋】



【抜粋部分<sup>11</sup>】

キリコ「今わかったわああなたの料理。うまいだろうとか驚かせてやろうとかそんな味でゴチゴチになってる料理だ。あたしが作った淡やかな味に勝つためギリギリまで味を濃厚にしてある！」

キリコ(ジャンを指さしながら)「あたしのを食べた後だからうまいと感じるだけの料理じゃないか」

ジャン(一コマの沈黙)

ジャン「それがどうした。料理は“勝負”だ！ 勝てばいいんだよ」

キリコ「なんだそりゃあ……おまえはそんなに勝ちたいのか！？ ケンカを売り歩くのがおもえの「料理」か！？」

ジャン「そうだ！」

(ひきつったキリコの横顔)

具体的なできごとに引っ張られて、諸経験の折り重なりが芽づる式にあわただしい言語化に見舞われちゃうよ～。とまらね～～～～。普段から「いやだ！」って思ってることも「ぶわあああ」とか「ばしばし」みたいな脳内擬音を伴って一気に押し寄せてくる～～。ああああやだやだやだー！ 知識や知恵が産出されるフロンティアが「大学」だとみなされている事実嫌気がさす！ 嫌悪感はやさなきっかけで堰を切る！ 思考はどぼどぼと流れてくる！ あああああ～。だめだだめだだめだ！ でもそんな俺だって某阪大学 OB なんだ！ あーそうですよコノヤローめ！ 元・倫理学・臨床哲学研究室所属ですよクソヤローめ！ あああああ逃れがたいものとしていまだにそこにある！ 「大学」とか「哲学」とか「専門」とかくそくらえだ！ 「受験勉強」とか「教育は投資だ」とかうんざりだ、うんざりだ！！ 資本と国家め！ 資本と国家め！！！！ それらを巧妙に等閑に付した上で営まれる知の権力的再生産基盤と暴力の嵐とそれから俺と「教育」制度め！！ 能力主義・「学歴」社会・優生思想・所有権！！！！ 「規範の外」とか「知恵」。「規範の外」。外……。

というわけなので、つい興奮してしまいます。質問者 7 が発言している。なにやら、「排除」されて「規範の外」に追いやられたのに、追いやられた先でまた「排除」されることについて話していた。大事なことだと思った。でも、俺は興奮していたので話をよく聞いていなかった。「規範の外」、外……。

19.

質疑応答が終わって 20 分の休憩時間になった。ここまでが〔パート I : 研究編〕で、休憩終わりの〔パート II : パチプロ編〕からはパチプロインタビュー対談(丈幻、マコト、ガリバー、大川冬馬)が始まる。大分長い間発表が続いていたので、休憩時間になるや参加者は足早にトイレや

---

<sup>11</sup> 西条真二、『鉄鍋のジャン！』①、1995、秋田書店、p.77

喫煙スペースに向かっていく。参加者同士で話し合うものもいれば、発表者に話しかけるものもいる(俺とか)。発表お疲れー。俺は悪友に、発表がよかったということ伝えてから B218 講義室を出た。同階のトイレに急ぐ。講義室さむすぎ。トイレが近くなってしまった。もともとトイレは頻繁に行く方なのだけれど、身体が冷えると 10 分に一回とか行きたくなくなってしまうことがあるので困ったものである。トイレに入る。用を足す。はあ。身体が冷えている。今日は朝から HPV ワクチンを打ちに行っていて結構出歩いた。それでもって、さっきのクソ高偏差値大学名宣言合戦で心が乱れてしまった……。ようするに、つかれている。……。帰りてえ。

20.

よし、帰ろう。「思い立ったが吉日」ってトリコも言ってたしな。小西さんと悪友の発表も聞けたし、今日は退散！！ トイレを出て講義室 B218 に戻る。自分の席まで歩く。鞆をひつつかむ。部屋を出る。

「ちょっとくったりきちゃったし、気晴らしに梅田のでかいジュンク堂にでも寄って帰るか～」と思って全学共通講義棟を出たら、学部生のときの担当教員の HR さんとすれ違った。「～HR さん?(発声)」「おお、××だっけ?」「そうです、お久しぶりです～(マスク外しながら)」。以下、数十秒の雑談をして、HR さんと別れる。さてさて、ジュンク堂ジュンク堂っと。

21.

ジュンク堂行く前の B218 講義室から阪大坂までをダイジェストでお届け(撮影したのは 6 月 23 日)。

写真15



写真16



写真17



写真18



写真 15: 全学共通講義棟の B 棟 1 階の出口正面

写真 16: 阪大坂へと続くレンガ張りの道。道の両側には緑の樹木が生い茂っている

写真 17: なんか偉そうな銅像とそのそばにあるゴミ箱が小さく写った写真

写真 18:ゴミ箱からあふれ出るゴミ。帰るときもまだ散らかっている

写真19

写真20

写真21



写真 19:阪大坂を登りきったところにある自転車止めの丸石が置いてある境界の帰り道視点

写真 20:阪大坂を上っているとあらわれる一部がえぐれた石の地面の帰り道視点

写真 21:「大阪大学」が刻まれた石碑を横から小さく写している

写真22



写真22: 阪大坂の入り口を帰り道の視点から移している。雨が降ってきているので写っている方が数に傘を差している

22.

でかいジュンク堂に行って気になってた本を買ってきました。

写真 23

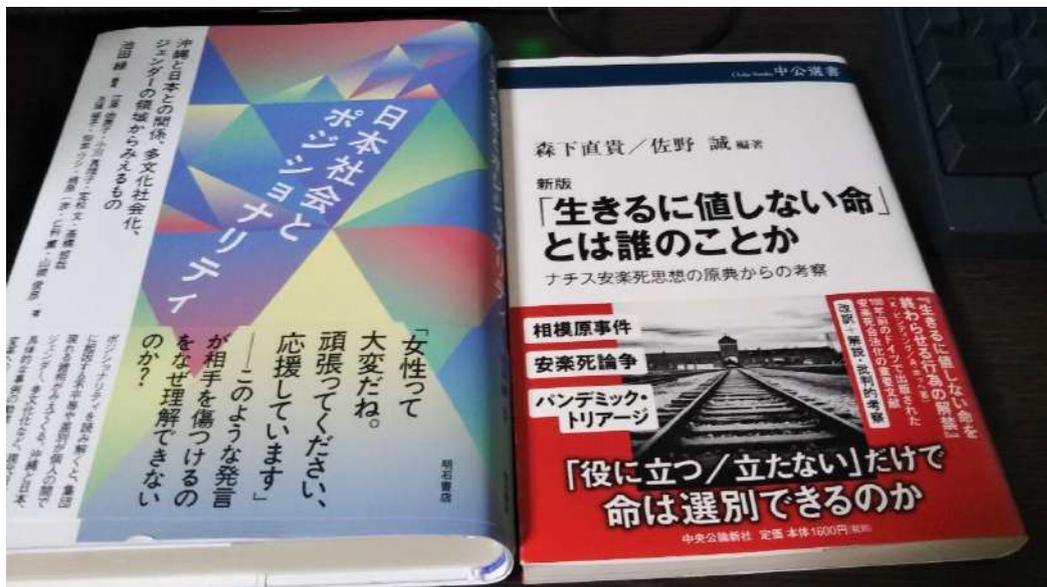


写真23: 2冊の本の表紙が並んでいる。1冊は池田緑が編者の『日本社会とポジショナリティ 沖縄と日本との関係、多分社会、ジェンダーの領域からみえるもの』。もう1冊は森下誠と佐野誠が編者の『新版「生きるに値しない命」とは誰のことか ナチス安楽思想の原点からの考察』

(2024年7月2日)

## 【参考情報一覧】

・「パチンコ・パチプロの哲学」のポスター

<https://x.com/oOomarikoo0o/status/1791646723951182080>

(2024年6月24日最終アクセス)

・大阪大学の学部専修紹介の教員紹介

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/academics/undergraduate-course/f-rinri>

(2024年6月23日最終アクセス)

・しまむらじお、「HPV ワクチンが高すぎる」

<https://www.youtube.com/watch?v=KMCAEsXeUew>

(2024年7月2日最終アクセス)

・「阪大坂」のウィキペディア

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%AA%E5%A4%A7%E5%9D%82>

・大阪大学の全学共通講義棟の見取り図

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/floormap/lect/>

(2024年6月23日最終アクセス)

・粗品、「超パチンコ依存症チェック」

<https://www.youtube.com/watch?v=UEIEMSooxpE>

・フェリックス・ガタリ、【訳】高岡幸一、『機械状無意識—スキゾ分析』、1990、法政大学出版局

・俺、「過去について」、2024

<https://anarchistshimamura.com/page-49/>

(2024年7月2日最終アクセス)

・小西さんが「私には〈当人〉にばかり光を当てるところがある」と述べているつぶやき

<https://x.com/oOomarikoo0o/status/1722396872978141278>

(2024年6月26日最終アクセス)

・レジスタンス、「【狂気!?】パチンカスの「イカれたオカルト」15 連発!!【幻想】」

<https://youtu.be/x6jF0dnQ6Mg?si=VW6aiE2zSWIW45iq>

(2024年7月2日最終アクセス)

・西条真二、『鉄鍋のジャン!』①、1995、秋田書店